

夏季少年のバス
故郷を離れ刻んだ思い出の1ページ

8月17日から3日間、福智町青少年育成町民会議主催の「夏季少年のバス」が宮崎県五ヶ瀬の里キャンプ村で行われました。研修地では、カヌーやタイヤチューピングでの川遊びや竹を使った箸と箸入れの工作体験など、恵み豊かな宮崎の大自然を満喫。寝食をともにした41人の児童たちは、親睦を深めながらふるさとでは味わえない貴重な3日間を過ごしました。



↑五ヶ瀬川上流からタイヤを使って下る「タイヤチューピング」に挑戦した参加者。

↓「ぬくもりを感じて」と題し、自身の体験をもとに差別の解消を訴えた中倉さん。



福智町同和問題啓発強調月間講演会
誰もが幸せに暮らせる社会を目指して

7月24日に地域交流センターで、福智町人権講演会が行われました。講師を務めたのは全国を舞台に同和問題の解消に向けて活動している、徳島県人権エンタメ集団「友輝」の中倉茂樹さん。自らが体験した出身地や結婚での差別と闘った経験について熱く語った中倉さんは、参加した約300人に今なお残る差別の解消に向けての課題を投げかけていました。

上弁城六夜待
魅せた間かせた上弁城のスターたち

8月17日に上弁城集会所で江戸時代から伝わる伝統祭事「六夜待」が盛大に開かれました。この祭事は昭和35年に一度途絶えたものの、地元有志により平成9年に復活。16回目を迎えた今年のステージでは、この日のために練習を重ねた出演者たちが、舞踊やダンスなど多彩な23演目を披露し、詰めかけた約300人の観客から惜しみない声援と拍手が送られました。



↑会場の爆笑をさらった「細川駒ちゃんとかいいな仲間たち」による「あたりまえ体操」。

↓上野焼のルーツや歴史など、両国の関わりについて説明を受けるメンバーたち。



第10回日韓交流事業
言葉の壁を越えて心の交流

上野焼開祖・尊楮ゆかりの韓国と福智町との交流が目的の日韓交流事業。その訪問団受け入れが、7月26日から2泊3日の日程で行われました。10回目を迎えた今年は、泗川市から19人、町から14人が参加し、上野焼の見学や宿泊地であるふれあい塾でバーベキューや花火などで交流して、国境を超えた友情を深めました。なお、韓国への訪問は10月に予定されています。

↓そろいの帽子とTシャツを着用し、琉球文化を学ぶために首里城など沖縄の名所を訪れた参加者たち。



沖縄平和学習「少年の翼」
平和の尊さに触れた3日間

「少年の翼」に参加した町内の小学5・6年生24人が、8月3日から3日間、沖縄県中城村で同年世代の家庭にホームステイしました。これは福智町の児童と沖縄の児童が互いの家庭にホームステイする交流事業の一環で、今年で19回目を迎えます。現地は快晴に恵まれ、初日と2日目に世界遺産の中城城や美ら海水族館などの沖縄の名所や自然、文化を満喫。平和学習では、沖縄戦での慰霊地などを巡り、参加者たちはいかに多くの命が失われたかを痛感し、戦争の悲惨さや命の尊さを胸に刻んでいました。

福智町商工会女性部ソフトバレー県大会出場
福智の精鋭が県大会にアタック

福智町商工会女性部の6人が、7月14日に粕屋町で行われた第27回商工会女性部連会ソフトバレー福岡県大会に出場しました。シニア(46歳以上)の部にエントリーした福智町は、朝倉市と広川町商工会を破り、予選を突破。迎えた決勝トーナメントでは惜しくも宗像市商工会に敗れたものの、日ごろの練習成果を十分に発揮し、さわやかな汗を流しました。



↑日ごろの練習の成果とチームワークを武器に大舞台へ挑んだ選手たち。(写真手前)

↓福智山山頂で山伏の久富達也さんから指導を受け、ホラ貝吹きに挑戦する児童。



修験の道プロジェクト
小さな山伏たちが挑んだ修験の道

7月29日から4泊5日で、かつて多くの山伏が修行した福智山や英彦山に登る「修験の道プロジェクト」が行われました。この事業は異なる地域や年代の子どもたちが、集団生活を通して社会性を身に付けることが目的。2回目となる今年は、田川地区の小学4年から6年生24人が参加し、約40kmの修験道制覇に挑み、夏真っ盛りの厳しい自然の中で心や体を鍛えました。